交通安全年間スローガン

◎山口県

住みよい山口　いつも心に　交通安全

◎全国

☆運転者（同乗者を含む）に呼びかけるもの

○今日もまた　あなたの無事故　待つ家族

☆歩行者・自転車利用者に呼びかけるもの

○身につけよう　交通ルールと　ヘルメット

☆子どもたちに交通安全を呼びかけるもの

○わたるまえ　わすれずかくにん　みぎひだり

令和５年度　交通安全作文募集
優　秀　作　品　集

交　通　安　全

令和５年度　山口県交通安全ポスター最優秀賞作品
（周南市立　遠石小学校１年　堀　凪紗）

一般財団法人　山口県交通安全協会

はじめに

「住みよい山口　いつも心に　交通安全」交通事故のない、住みよい山口県はみんなの願いです。このためには、県民一人ひとりが交通ルールと交通マナーを守り、そのことを習慣づけることが何よりも大切です。

この作文集は、令和五年秋の全国交通安全運動の一環として、各警察署、各地区交通安全協会及び各教育委員会並びに各学校のご協力により、県下小・中学生から寄せられた七〇四点に及ぶ交通安全作文の中から優秀な作品を選び編集したものです。

作品はどれも、こどもの立場から見た交通安全についての貴重な意見や考え方が素直に述べられています。

本冊子を交通安全意識の普及・啓発と交通事故の防止に役立てていただければ幸いです。

令和六年一月

一般財団法人　山口県交通安全協会
会長　村田常雄

もくじ

小学校の部

最優秀

○ いつものこう通あんぜん　光市立三輪小学校　二年　海田佳音

○ 私がヘルメットをかぶる理由　岩国市立平田小学校　六年　阿曽桜子

優秀

○ 道ろの近くであそばない　柳井市立新庄小学校　三年　川原天杜

○ ヘルメットはなぜつけるか　周南市立徳山小学校　三年　添木廉仁

○ 安全運転をしよう・ルールを守ろう　光市立塩田小学校　五年　槻舘空

○ 安全第一　周南市立徳山小学校　四年　藏永桔平

佳作

○ 自転車にのる時は絶対に!!　下松市立花岡小学校　三年　日浦珠里

○ こうつうあんぜんをまもろう　長門市立俵山小学校　三年　山下あや

○ ヘルメットで守る命　下松市立公集小学校　六年　森重千紗

○ 交通安全の主役　山口市立井関小学校　四年　片岡知大

令和五年度　交通安全ポスター最優秀賞作品

中学校の部

最優秀

○ 自転車事故のない世界へ　萩市立萩東中学校　一年　森田凌生

優秀

○ 事故「ゼロ」に向けて　周南市立周陽中学校　三年　山本絢楓

○ 自分の身を守るために　山陽小野田市立高千帆中学校　一年　中村結心

佳作

○ 過去のおかげで今がある　岩国市立岩国中学校　一年　藤岡ひまり

○ 「防げるものは防ぐ」　光市立光井中学校　二年　浅野唯桜里

小学校の部

最優秀

いつものこう通あんぜん

光市立三輪小学校
二年　海田　佳音

「おはようございます。」

わたしは、こう通あんぜんボランティアのおじさんにまいあさあいさつします。通学ろで通るやまとほいく園入り口のおうだん歩どうには、しんごうがないのでこう通あんぜんボランティアのおじさんが、わたしたちがおうだん歩どうを通るのをはたをもって見まもってくれています。

わたしが、一年生のときにうでをこっせつしてギプスをしていたとき、

「どうしたの、だいじょうぶ。」

とこえをかけてくれました。こう通あんぜんボランティアのおじさんがいてくれるので、わたしたちはあんしんしておうだん歩どうがわたれているんだと思います。雨の日でもあつい日でもいてくれてとてもかんしゃしています。

先生とのおやくそくは、おうだん歩どうを通るときには、かならず、わたるまえにぴたっです。とまらないと車にひかれてしまいます。今までわたしはいちども、とまらずにいったことはありません。車がとおくをはしっているようにみえてもすぐに近くを通りすぎていきます。車が通りすぎるのをおうだん歩どうの前でかくにんしてからわたるようにしてます。

おかあさんとのおやくそくは、おうだん歩どうをわたる前にとまって右と左をよくかくにんすることです。いつも友だちとあそびにいくまえによくいわれます。友だちの家にいくまでに大きいおうだん歩どうがなんかしょかあります。とまって右と左をかくにんするときにとおくをよく見て、車が通ってこないことをかくにんすることがたいせつです。それは車がおうだん歩どうをわたっているあいだに近くまでこないようにするためです。

今日もこう通あんぜんをまもります。

私がヘルメットをかぶる理由

岩国市立平田小学校
六年　阿曽　桜子

あなたは自転車に乗りますか。そのとき、ヘルメットをかぶっているでしょうか。

四月から、ヘルメットの着用が努力義務化されました。わざわざ努力義務化させる、ということは、ヘルメットの着用はとても大切なことだけれどもきちんと着用している人が少ないということではないでしょうか。

私は自転車に乗るときは必ずヘルメットをかぶっています。どうして私は必ずかぶっているのかなと思い返してみました。

初めてヘルメットを買ったのは、一番最初に自転車を買ったときです。お父さん、お母さん、店員さんと、練習中にこけることもある頭をうつかもしれない、そのときに頭を

守ってくれるのがヘルメットだよという話をして、ヘルメットもいっしょに買ったのだと聞きました。それからは自転車の練習中も、乗れるようになってからも自転車に乗るときは必ずかぶっています。

そう考えると、初めて自転車に乗るときからかぶっているとそれが習慣になるので、ヘルメット着用は最初が肝心だと思いました。

以前、私のお父さんは自転車で通勤をしていました。そのころは、普段からヘルメットをかぶっていませんでした。

ある日、お父さんは自転車に乗って通勤中にこけてしまいました。お母さんはこけたところを見ていて、お父さんが頭をうっていたらどうしよう、大けがをしてしまったと、とても心配したそうです。実際は、自転車はこわれて買いかえることになり、腕時計もこわれましたが、体はあちこちにすり傷ができたくらいですみました。私は、でもそれはヘルメットをかぶらなくても大丈夫だったというわけではなく、ただ運がよかっただけだと思いました。

今、私は徒歩で学校に通っています。そのときに自転車に乗っている人をよく見かけますが、ヘルメットをかぶっている人は多くありません。自転車の運転に自信があるから自分はかぶらなくても大丈夫だと思っているのでしょうか。それとも、ヘアスタイルがくずれるからかぶるのがいやなのでしょうか。ほかにも、道路がきちんと整備されているのでかぶらなくてもよいと安心しているのでしょうか。さまざまな理由があるかもしれませんが、やはり私は自分の命を守るためにもヘルメットはかぶるべきだと思います。

それでは、ヘルメットの着用が、当たり前になるにはどうしたらいいでしょうか。私は、

初めて自転車に乗る子どもには、大人がヘルメット着用の大切さを教えて、乗りはじめたときから必ずかぶるようにと声をかけること、つまり最初が肝心だと思います。すでに乗っている人は、ヘルメットをかぶっていない時にけがをして、それが軽傷だったとしても、きっとそれは運がよかっただけだと気づくこと。

事故は突然に起こります。予測なんてできません。事故にあった時には、自転車に乗っていた人だけでなく、家族や友人に悲しい思いをさせることになるかもしれません。事故にあってからではおそいのです。

だかこそ、私はそうならないために、自分の身を自分で守る手段として、自転車に乗るときのヘルメット着用は大切なことだと考えます。

優秀

道ろの近くであそばない

柳井市立新庄小学校
三年　川原　天杜

ぼくはよく、お父さんとお母さんに「道ろの近くでは遊んだらダメ!!」とおこられます。道ろで遊んでいるわけではないのに、なんでおこられるんだろうと思いました。だからぼくは、「なんで道ろの近くで遊んだらだめなの？」と聞いてみました。

お母さんは、

「道ろの近くで遊んで、もしもボールなどが道ろにでたり、遊びにむ中になってとびだしてしまったら、車にひかれちゃうからダメなんだよ。」

といいました。それに

「車はきゅうには止まれないから。天杜が車に気づいたときには、もうおそいんだよ。ままは天杜が車にひかれちゃったら、すごくかなしいから道ろの近くではぜったいに遊ばないでね。」といいました。

ぼくは、道ろで遊ばなければ大じょうぶだと思っていたけれど、遊びにむ中になって道ろをわたってしまったことがあることを思いだしました。その時は車はこなかったけど、これからも道ろの近くで遊んでいたらいつかはかならず車にひかれてしまうと思いました。

ぼくにはまだほいくえんじの妹がいます。もしも、妹がひかれてしまったらと考えたら、とてもかなしい気もちになりました。

ぼくも、かぞくがとても大すきで、かぞくをかなしませたくないし、ぼくもかなしいおもいをしたくないので、道ろの近くでは、ぜったいに遊ばないし、妹や友だちがもしも遊んでいたらぜったいにちゅう意して遊ばないようによびかけます。

道ろにとびだして、じこにあう人がいなくなることをねがっています。

ヘルメットはなぜつけるか

周南市立徳山小学校

三年　添木　廉仁

ぼくは自てん車にのる時、かならずヘルメットをつけます。小さい時からお母さんがぼくにつけるのでそれがあたりまえだと思っていました。だけどよく見たら大人はほとんどヘルメットをつけていません。お母さんはぼくにあぶないからヘルメットをつけなさいと言うのに、お母さんはつけていません。

なぜ大人はつけなくていいのでしょうか。

自分で身を守れるからですか。でも大人だって車にぶつかってころんだら頭をぶつけると思います。なぜ子どもだけにヘルメットをつけなさいと言うのでしょうか。

今年からヘルメットは努力ぎむというのになったそうです。どういうことなのか聞いたら、ヘルメットをつけるようつとめないといけないことらしいです。よくわかりませんがつけなくてもおこられるわけではないそうです。それでもまわりを見たらヘルメットをつけている人がふえたと思います。お母さんもヘルメットを買うと言っていました。

ぼくは頭をぶつけるのがいやなので、自てん車にのる時はぜったいヘルメットをつけるけど大人はだれかにきめてもらわないとヘルメットをつけないんだなと思いました。

じこにあった時、頭を守るのは一番大切だと思います。本当はじこにあわないことが大切だけど、もしもの時のためにみんながヘルメットをつけてあんぜんに自てん車にのることができたらいいなと思います。

安全運転をしよう・ルールを守ろう

光市立塩田小学校

五年　槻舘　空

わたしが学校に行く時に通る道路は、信号がありません。その道路は、特に朝と夕方が交通量が多いです。中には、すごくスピードを出している車もたまに見かけます。

登下校の時に、横だん歩道をわたるけれど、信号が無いから、先生や地いきの人が旗を持って見守ってくれています。

なので、交通事こは、わたしには、あまり関係がない話だと思っていました。

ところがある日、

「トラックにまきこまれたー」
と言う電話がお母さんのけい帯電話にかかってきました。
かけてきた相手はお父さんで、バイクで通きんしている時、大がたトラックの左折にまきこまれる事こが起きたみたいです。
この後、けい察ときゅう急車が来てお父さんは病院に運ばれて行きました。
運が良くて大けがはしませんでしたが、話を聞いた時、わたしはこわくて仕方がありませんでした。
事この原因は、大がたトラックが左に曲がる時に、ウィンカーを出さずに急に曲がってきたので、お父さんはよける事が出来なかったそうです。
この事こがあったことで、わたしの身の周りにも、交通事このきけんがあることが分かりました。
お父さんはいつも車を運転する時に、「かもしれない運転をしなければいけないよ。」と言っています。
ところが、その日は雨がふっていたので、雨の事が気になり、注意が足りなくなっていたと言っていました。
いつも気にして運転しているお父さんでも、ふとした時に注意ができなくなる事があるんだなと思いました。
そして、交通事こは、相手がいる事だと分かりました。
いくら自分が気をつけていても、相手が気をつけていなかったら事こになってしまいます。
だから、今度からわたしは、横だん歩道をわたる時も、自転車に乗る時も、止まってくれるだろう、道をゆずってくれるだろうと言う考えじゃなく、お父さんがいつも言っている、止まってくれないかもしれない、ゆずってくれないかもしれないと言う、「かもしれない運転」を心がけたいと思います。
そう言う心がけをみんながする事で、相手を思いやる運転が出来たら、交通事こはなくなっていくと思います。
そして、わたしは低学年の子達にも、教えてあげたいと思いました。
テレビでは、毎日のように事このニュースを見て、とても悲しい気持ちになって、事こはこわいなと思いました。
事こにならないように、スピードをあまり出さないようにしたり、早めにウィンカーを出したり、左右をよく見たり、飛び出さないようにしたいです。

安全第一

周南市立徳山小学校
四年　藏永　桔平

ぼくは四年生になり、交通安全教室を受けました。警察の方が来られて、自転車の乗り方を習ったり、事故にあうとどうなるかを教えてもらいました。ぼくは事故の写真を見た時、とてもこわくなりました。ぼくは事故にあわないためには、どのようなことに気をつければ良いのか調べてみました。
最初に一番大事なことは、道路に飛び出さないことです。車やバイクはどこから来るか分かりません。前後や左右をよく確認して、飛び出さないように気を付けなければいけません。道路を渡る時は、横断歩道を使います。横断歩道には信号機がある所とない所があります。信号機がない所を渡る時は、車が来る

かもしれないのでしっかりと確認をして渡るように心がけないといけません。

次に車のそばでは遊ばないことです。止まっている車のそばで遊んでいると、急に車が動き出すかもしれません。車の後ろに子供がいても、運転席からは見えないこともあるそうです。もし、車が動き出してぶつかってしまうと大きな怪我をしてしまいます。車の後ろを通る時も特に注意しなければなりません。

次に自転車についてです。自転車の正しい乗り方は、乗る時はヘルメットをかぶって、自分の体に合ったサイズの自転車に乗ることです。そして、ハンドルを持った時、ひじが軽く曲がるくらいが良いそうです。止まれの標識があれば必ず止まって左右の確認をします。暗くなったらライトをつけます。ぼくは友達と自転車に乗って遊びに出かけます。このようなことをいつも心がけるようにしたいです。

ぼくは山口県に住んでいます。昨年の交通事故について調べてみました。昨年、山口県での発生件数は二二六一件で、亡くなった方は三一人と分かりました。ぼくは、この数字を見て、身近な所でもこんなに多くの事故が起きていることを知り、とてもおどろきました。また交通事故の年齢を調べてみるとお年寄りの方が多いことも分かりました。年を取ると身体能力や判断が遅くなってしまうそうです。また、あわててしまったり、あせってしまって運転を間ちがえてしまうこともあるそうです。ぼくもニュースでブレーキとアクセルのふみ間ちがいの事故を見たことがあります。お店に車が突っ込んできたら、ぼくにはどうすることもできません。とてもこわいです。今では自動ブレーキやふみ間ちがい防

止の車もあるそうです。そういう車が増えて、一件でも事故が減ると良いなと思います。

ぼくも大人になったら車を運転するようになると思います。車は相手に怪我をさせるだけでなく、命をうばってしまうかもしれません。命は大切です。正しく乗りたいと思いました。車に乗る時は、歩道の方のドアから乗ったり下りたりします。乗った時も必ずシートベルトをします。事故が起きた時、シートベルトをしているのといないのとでは、死亡する確率が約十四倍にもなるそうです。シートベルトはぼくの命を守ってくれる大事なベルトなんだと思いました。

最後にもしも事故にあってしまった時はどうしたら良いのか調べました。まずは安全な場所に移動です。怪我をして動けない人がいたら、助けてあげます。救急車を呼んだり、警察の方に事故の報告をしたりします。考えただけでもドキドキします。事故には絶対にあいたくないです。

ぼくの家の周りにも危険な場所はたくさんあります。ぼくの通っている小学校のとなりに公園があるのですが、その間はせまいので左右があまり見えないことがあります。また、学校へ行く途中に、早く変わってしまう信号機があります。急いで渡ろうとしてしまいますが、ちゃんと止まって青色になってから渡ろうと思いました。

毎朝、ぼくが学校に行く時、地域の方やお父さんやお母さんが横断歩道を渡るのを見守ってくれています。事故にあわないように見守っています。「おはようございます。ありがとうございます。」と感謝の気持ちを言おうと思います。そして命はとても大切です。命がなくなったら生き返れません。怪我をしたらとても痛いです。逆もあります。ぼくが怪

我をさせてしまうかもしれません。事故を起こすとみんながつらい思いをしてしまいます。そうならない為に学校の行き帰りや自転車に乗って遊びに行く時は、交通ルールを守り、楽しい生活を送りつづけていきたいなと思いました。

佳作

自転車にのる時は絶対に!!

下松市立花岡小学校
三年　日浦　珠里

自転車にのる時は絶対にヘルメットを着用しましょう。

「ちょっとそこまで行くだけだから。」

「今日は暑いからかぶりたくないな。」

「かわいい髪型にしたからいやだなぁ。」

なんて思っているそこの君たち!

「ヘルメットはきちんと着用しないと。」

「でも、ヘルメットって子どもだけが着用すれば良いんでしょ?」

と思っているおじさん!おばさん!お姉さん!お兄さん!おばあちゃん!おじいちゃん!

みんな、自転車にのる時は絶対にヘルメットを着用しましょうね。

なぜだって?だって、大事な大事な頭を守らないと、もしもの時に大変なことになるかもしれないよ。自分だけが注意していても、もしもの時はだれにだって起こるかもしれないんだから。

私のおばあちゃんも五年前に、自転車でお仕事に行っている時に横だん歩道で右から来た車にはねられてしまったことがあるよ。その時、二~三メートルとんでいったみたいで、全身大ケガして、骨せつしたり、頭の中にも血がたまって、もしかしたら助からないかもしれないって先生に言われたよ。おばあちゃんが死んでしまったらどうしようってこわかったのを今でもおぼえてるよ。

私のおばあちゃんは元気になったから良かったけど、そうじゃない人だってたくさんいるはず。だから、自分だけのためじゃなくてあなたを大好きな人をかなしませないためにも、ちゃんとヘルメットを着用して、交通ルールを守ってほしいです。

だから、もう一度言うね。自転車にのる時は絶対にヘルメットを着用しましょう。

こうつうあんぜんをまもろう

長門市立俵山小学校
三年　山下　あや

六月二日に交通教室がありました。教えてもらったのは、たわら山ちゅうざい所のおまわりさんです。おまわりさんは、わたしたちの小学校の登下校の見まもりをしてくださっている方です。

はじめに、自てん車のてんけんについて教えてもらいました。「ぶたは、シャベル」をはじめてしりました。「ぶた」の「ぶ」はブレーキです。ブレーキがきくかきかないかしらべないといけないからです。「た」は、タイヤです。タイヤは、くうきが入っていてパンクしていないかたしかめないといけません。「は」は、ハンドルです。ハンドルがゆるんでいないかたしかめます。「シャ」は、車体です。車体は、グラグラしていては、いけません。そしてさいごの「ベル」は、きけんなときにつかいます。わたしが「ぶたは、シャベル」をきいて、「ぶたは、シャベル」は、まもらないといけないということが分かりました。

次にヘルメットのことを話します。

おまわりさんからヘルメットは、わたしたちの頭をまもるものときききました。わたしは、まだ「ゆの家」にヘルメットがないので、あんまりしていません。だからわたしは、ヘルメットがあれば自てん車にのるときに、ヘルメットをします。

だからわたしは、こうつうあんぜんをまもるとじこには、ならないし、じぶんのいのちもみんなのいのちもまもれるからです。それでわたしは、こうつうあんぜんをまもります。おまわりさんがおしえてくださったことをまもってじぶんのいのちをたいせつにしていきたいとおもいます。

ヘルメットで守る命

下松市立公集小学校
六年　森重　千紗

休みの日に母と妹と私でお散歩をしていたら、一台のパトカーが自転車に乗ったお兄さんを止めて何か話をしていました。遠くから見ていただけなので何の話か分かりません。呼びとめられたのはなぜか、三人で話し合い「ヘルメットをつけていないからではないか」という結果にたどり着きました。

今年の四月一日から、法改正により自転車に乗る際のヘルメット着用が努力義務化されました。努力義務とは何か調べたところ、するように努めなければならない、という事です。つまり自転車に乗る際はヘルメットを着ける様に努めなければならないという意味になります。なぜそんな法になったのかな？と思い自分なりに考え、きっと自転車事故が増えたからだと思いました。私の考えが正しいのかを確認するため、下松警察署に行って聞いてみました。お巡りさんはとても優しく、事故にあった際に多くは頭を打ってしまい、致命傷になってしまうからだと教えてくださいました。そしてヘルメット着用時と非着用時での致死率比は山口県内でも約四・五倍もある事も学びました。私の住む下松市内の人はどのくらいヘルメットを着けているのか、市内各所を数日かけて調査してみました。全二六四人、そして面白い結果がでました。

①小学生から中学生のヘルメット着用が義務とされている人は全員守っていた事。

②高校生以降の女性は一人も着用していな

い事。
③ぼうしをかぶっている人が約7％いた事。
④若い人よりおじさんの方が着用している事。
⑤しかし高齢になるにつれ、また着用しない人が増えていく事でした。

私はよく自転車に乗って友達と遊びますがミント色のヘルメットを必ずつけていきます。自転車を買った時に自分で選んで買った物なので気に入っています。

大人の人はヘルメットを持っていないのでかぶらない人が多いのかなと思います。でも、お気に入りのヘルメットがあれば、ぼうしの代わりにヘルメットがあれば、着用率は上がり、事故にあった時の死亡率が下がるのではないかと考えました。

事故を起こしたくて行動する人はいないと思います。事故が起きた時の自己を守るために、まずはヘルメット着用から始めてみる事は難しくないのではないでしょうか。

交通安全の主役

山口市立井関小学校
四年　片岡　知大

今年の春、ぼくのお姉ちゃんが小学校を卒業しました。そして、弟が新一年生として入学してきました。これまではぼくは三年間、お姉ちゃんと一しょに登校してきました。お姉ちゃんが、登校班のリーダーで、黄色い旗を持って先頭を歩くのに、ついていけばよかったけれど、弟と一しょに登校するようになって、見守る立場になりました。

入学式が終わって、次の日に初めて弟をつれて歩いて登校しました。ぼくは、とてもきんちょうしていました。お姉ちゃんは、しっかり見守ってくれていたけれど、ぼくは、責

任感に自信がありません。ドキドキしながらつれて歩いたのですが、ぼくを助けてくれる強い味方がいました。それは、見守り隊の方です。

ぼくの家の前には、横断歩道があって、そこで見守り隊の方が待ってくれていました。安全に横断歩道をわたらせてくれて、登校班のほかの友達と合流する所までついてきてくれました。そのおかげでぶじに学校までつれていくことができました。ぼくは、こんなふうに見守ってくれる人がいてくれて助かったなと思いました。

弟をつれていく立場になってはじめて、だれかの安全を守ることは、とても大変なことだと分かりました。弟がちゃんとついてきているか、時々後ろをふりむいて確認することや、横断歩道のない十字路で、左右に車がいないかしっかり見ることなど、三年生までは気にしていなかったことを気にするようになりました。

車を運転する人だけではなく、ぼくたち小学生も気を付けようという心をいつも持つことです。見守り隊の大人の力もかりながら、ぼくたち一人ひとりが交通安全の主役だという意しきを持って、毎日をすごしていきたいです。

交通安全ポスター最優秀賞作品

山口市立湯田小学校
２年　松永　真歩

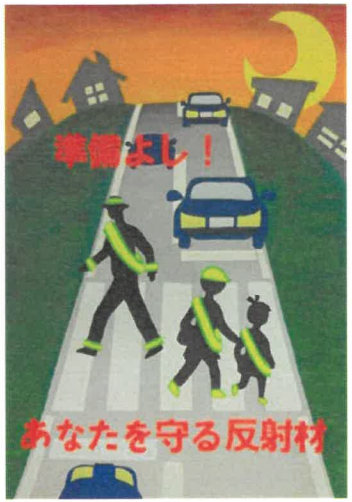
平生町立平生小学校
３年　笹木　梨央

宇部市立東岐波小学校
４年　久間　衣純

防府市立華城小学校
５年　石田　華夢

宇部市立新川小学校
６年　村中　紗良

岩国市立灘中学校
１年　中山　桃花



山陽小野田市立竜王中学校
３年　小路　史帆

光市立浅江中学校
２年　轉　聡真

山口県立防府西高等学校
１年　徳永　琴子

中学校の部

最優秀

自転車事故のない世界へ

萩市立萩東中学校
一年　森田　凌生

毎朝、新聞を開くと、交通事故に関するニュースをよく目にします。情報化社会が進展してもなお、交通事故が減らないのはなぜなのでしょうか。

中学生になった僕の行動範囲は一気に広がりました。それに伴い、これまで徒歩だった移動手段は自転車へと変わりました。とても便利な自転車ですが、乗り方を間違えると、それはとても恐ろしい凶器になることを忘れてはいけません。

そこで、自転車の交通安全について、僕の経験を踏まえ、三つの提案をしたいと思います。

一つ目の提案として、自転車の安全点検です。自転車には免許制度がなく誰でも気軽に乗ることができます。しかし、自転車は自動車と同じ、車両に分類されます。つまり、安全に乗るためには、日頃からの点検は必要不可欠です。

僕が通っている中学校では、四月に全校で自転車点検があります。その点検に合格しないと、自転車で学校に行くことが認められていません。何より、僕たちの学校では、安全点検の合言葉「ぶたはしゃべる」を大切にしています。そのため、常に自転車の安全について意識することができています。

その反面、自転車点検は一年に一回しかありません。自動車の点検は六か月に一回ある

ように、自転車の点検は一学期に一度はするべきだと考えました。安全な自転車は、安全に乗るための技術の前提条件となります。だからこそ、学校だけでなく、家庭や地域の協力を得ながら、安全な自転車が行き交うまちづくりをすすめていかなくてはなりません。

二つ目の提案として、自転車のヘルメット着用があります。令和五年四月に道路交通法が改正され、年齢を問わず、自転車乗車時のヘルメットの着用が努力義務となりました。山口県では、令和六年四月から県立高校に通う生徒はヘルメットの着用が義務化されるそうです。僕は大事な頭を守るためにも、ヘルメットの着用が広く浸透していくことが重要だと考えました。

しかし、中学生の多くは、ヘルメットを登下校時のみ着用し、普段の生活ではほとんど着用していないという現状があります。ヘルメットを着用するかしないかでは、死亡リスクはおよそ四倍違うと言われています。自動車のシートベルトと同じように、正しく着用することで、いざという時に備えたいです。

三つ目の提案として、自転車は加害者にも被害者にもなるということを意識することです。つまり、自転車に乗る以上、自動車に乗っていることと同じだという認識を持たなければなりません。

加害者にならないために必要なことは、歩行者の気持ちに寄りそうことです。広い視野をもって、歩行者がどのように行動するかを予測することが重要です。そのことに加えて、自分自身の自転車の技術を過信することなく、「自分の運転は下手である」という自覚をもっておくことが大切だと考えました。

被害者にならないために必要なことは、自動車に対して、自分の存在をアピールすることです。そのためには、自転車の定期的なメンテナンスが重要で、特にリフレクターは常にきれいに保っておきたいです。また、中高生の自転車事故は登下校の時間帯に集中していることから、心に余裕をもった運転を心がけなければなりません。

これまで考えてきた三つの提案は決して目新しいことではありません。しかしながら、これまでの行動や活動に一工夫加えるだけで、交通事故は大幅に減少すると思います。

何より、歩行者であったとしても、交通社会の一員であることを自覚しなくてはなりません。そこには、日本人がこれまで大切に守ってきた「お互い様」という考えがあるはずです。交差点でのハンドサインや離合時のゆずり合いなど、日本の交通社会にはたくさんの思いやりがあふれています。宮澤章二さんの詩の中にも、「思いは見えないけれど　思いやりはみえる」というものがあります。一人ひとりが思いではなく、思いやりという形にすることで、交通事故が減ると確信しています。

技術が進展していく中で、短期間のうちに、人々は高速で移動する手段を手に入れました。そのことは、人々に便利さとともに、危険性をもたらしました。中学生になった僕にも同じことが言えるかもしれません。自転車という移動手段を手に入れた僕も、交通社会の一員として自覚のある行動をしっかりとっていきたいです。

明日開く新聞に交通事故に関するニュースがないことを願って。

優　秀

事故「ゼロ」に向けて

周南市立周陽中学校
三年　山本　絢楓

二六一〇人。これは、二〇二二年日本の交通事故死者数である。交通事故は自然災害と異なり、大半は人間の行為による災いだ。防ぐこともできたかもしれない。そして、二六一〇人もの命がなくなったということは、その何十倍もの人々の涙、胸がつぶれるほどの悲しみがあったに違いない。そう考えると、私はこの数の重さに胸が痛んだ。

私は数ヶ月前に、妹と陸上の自主練習をしに行く途中、自転車で転び、頭を打った。けがは打撲とすり傷ですみ、近くに消防署もあったため、応急処置もできた。しかし、家族にとても心配をかけてしまった。特にふざけていたわけでも、よそ見をしていたわけでもなかった。信号は青。そう思ってペダルに足をのせたとき、バランスを崩して転倒した。スローモーションのように地面に吸い込まれ、気づけば倒れた自転車と心配そうに見つめる妹。頭も痛い。突然の出来事で、ほんの一瞬で、死んでしまうのではないかというくらい怖かった。転ぶ瞬間は自分では何もできず、防ぐことはできなかったと思う。しかし、けがを抑えることはできたはずだ。私はヘルメットをかぶっていなかった。あの程度のけがだったら、ヘルメットをかぶっていればほぼ無傷だったと思う。自分のために自主練習をしに行ったのに、注意を怠ったせいでけがをしてしまっては、意味がない。加えて、家族に心配までかけてしまう。ヘルメットをかぶっていればよかったと猛反省した。

近年、車両の安全性の向上や、交通環境の整備により、交通事故死者数は減少の傾向にある。しかし、「ゼロ」にはならない。点滅信号になりそうな横断歩道を渡るとき、あなたはよく周りを見ているだろうか。近場でも、遠方でも、きちんとシートベルトをつけているだろうか。少なくとも私はこの事故から、ヘルメットをつけることはもちろん、事故による被害を抑えるためにできることを、より一層、確実に行っている。

交通事故を「ゼロ」にするには、もう一つ考えるべきことがある。それは、最近多発している、高齢者の交通事故だ。認知能力の低下を感じ、免許を返納したいと感じていても、食材を買いに行ったり、病院に通ったりするために車が必要になる人もいる。しかし、生活を支えるための車が、大切な生活を壊してしまうことになる事故は、なくしていかなければならない。

私の祖母は今、車をほとんど使っていない。事故への恐れもあるのだと思う。しかし、近所の人と物々交換をしたり、交通機関を使ってツアーに参加したりしている祖母はとても楽しそうに生活している。祖母に話を聞いてみると、買い物にも徒歩で行くため、持てる範囲の必要なものだけを買うことができるらしい。また、歩くことでしか通れない道で、車で通り過ぎるだけでは見つけることのできない小さな発見や、地域の良さを知ることができ、人との関わりも広がると話してくれた。外の空気を吸い、自分の足で歩くことは健康にもいい。徒歩の生活も案外いいものだと感じた。車を運転するのは、「生活するため」以外にも、「趣味のため」という人も多いそうだ。

人と関わる上で生まれる趣味が増えていくと、事故の数にも変化が見えてくるだろう。一人一人が身近なところから触れ合いの輪を広げていけば、その効果は絶大だ。

事故を「ゼロ」にするためには、整備や車の安全性向上といったハード面だけでなく、人間の一つ一つの行動というソフト面での見直しが必要不可欠だ。自分にできることを考え、それを実行することが、交通事故を防止するのだ。

自分の身を守るために

山陽小野田市立高千帆中学校
一年　中村　結心

あなたは自転車に乗るとき、ヘルメットをかぶっていますか。

今年の四月から、自転車を利用するすべての人を対象にヘルメットの着用が努力義務化されるようになりました。しかし、私は正直ヘルメットをかぶることに少し抵抗がありました。なぜなら、ヘルメットをかぶることでかみがたもくずれてしまうし、服装とも合わないなど外見上のはずかしさを感じていたからです。なので私は友達と遊びに行くときなどは、基本、ヘルメットをかぶらず運転していました。しかし、ある日習い事の時間がせまっており、急いで自転車を走らせ、学校から帰っていたときのことでした。いつもの通

学路ではなく、近道である住宅街から少しはなれた細い道を走行していました。その道は曲がり角も多く、カーブミラーが少ないため、とても見通しが悪いところでした。いつもなら自転車や歩行者は来ていないかと左右をよく確認してから進むのですが、その日は急いでいたため確認せず、そのまま進んでしまいました。その時、曲がり角から急にトラックが出てきました。ぶつかりはしなかったものの、急いでよけたひょうしにコンクリートのかべでかぶっていたヘルメットをこすってしまい、ヘルメットに傷がついてしまいました。もしヘルメットをかぶっていなかったら、頭に傷がついてしまっていたかもしれません。今考えるとゾッとします。また、それと同時にヘルメットをかぶることの大切さと重要さ、あの時ヘルメットをきちんとかぶっていて本当に良かったな、など、ヘルメットがどれだけ必要なものなのかを実感することができました。

昨年、自転車乗用中の交通事故件数は六万九千九百八十五件でした。その中で最も多かったのは、小学生・中学生・高校生の二十歳未満の子供による交通事故です。そして、子供の自転車事故で最も多いのは『出会いがしらの事故』で、全体の半数以上を占めています。その原因は安全確認不足や、一時停止のおこたりなどです。自転車は、スピードが出て運転走行が楽なぶん、事故の被害も大きいのが特ちょうです。そんな中、私達の死や負傷するなどの重傷になる確率を大はばに下げ、命を守ってくれるのが、ヘルメットです。ヘルメットを事故時に着用していたときと着用していなかったときの致死率は約二・六倍もちがいます。しかし、ヘルメットの着用率はとても低いです。それは、私と同じ

ようにかみがたがくずれてしまう、服装とも合わなくて外見上のはずかしさによる抵抗を感じる、努力義務だから必ずしないといけないわけではないから、などと感じる人が多いからだと思います。また、自分は事故にあわないだろうと思っている人も多いと思います。しかし、その油断や考えが命をおとしてしまうことにつながることがあります。

私は過去に自動車の衝突事故にあったことがあります。私が小学校入学前の年長さんの時でした。私は自分の母親の車の後方の席に乗っていました。信号で右折する際に対向車が通り過ぎるのを待っていた時に、後方から来る自動車に追突されました。追突された瞬間、何が起きたのか分からず、びっくりして泣き出してしまいました。追突された衝撃はありましたが、追突してきた自動車のスピードがゆっくりであったこと、自分も含め乗車していた家族がみんなシートベルトをしめていたことで家族みんながケガがなく無事でした。その追突してきた運転手の人は、事故の直後、すぐに私達の方に来て、「大丈夫ですか。ケガはないですか。本当にすみません。」と心配そうに声をかけてくれました。母親が相手の状況を聞いたところ、急いでいて右折の信号で曲がろうとして、ちょっとよそ見運転をしてしまい、気づいた時には私達家族の自動車に追突してしまったとのことでした。私は事故直後、泣いてパニック状態でしたが、しばらくすると普段の落ちつきを取り戻すことができました。家族が無事であり、ほっとしたのを覚えています。でも、その事故以降は、また追突されるんじゃないかという不安にかられることもあり、恐怖心は一時、自動車に乗るたびに感じていました。

このように、自分が気をつけていても事故

が起こることは十分にありえます。私はこれから友達と遊びに行ったり、学校の登下校などで自転車を利用する機会がさらに増えてくると思います。そして私は自転車を利用するときには必ずヘルメットをかぶり、自分の命は自分で守りたいと思います。たくさんの人が楽しく平和な生活を送るために、一人一人が交通ルールを守る、ヘルメットをかぶるなどの基本的安全行動を意識して、交通事故ゼロのすてきなまちにしていきたいです。

佳作

過去のおかげで今がある

岩国市立岩国中学校
一年　藤岡　ひまり

私が通っている通学路には、小学生の時からずっと、交通安全ボランティアの人達が立っています。小学生の時は、「自分のタイミングで横断歩道をわたりたいのに。」と思っていました。ボランティアの人達の大切さも分からないまま、横断歩道をわたっていました。でも、昔経験したことの一つで、交通安全を意識する事の大切さを知りました。

私が小学生の時、学校に行くのに家を出るのが遅くなってしまったことがありました。急いで横断歩道に行くと、もうボランティアの人達は帰っていました。その時、少しうれ

しかったです。自分のタイミングでわたるのが初めてだったからです。でも、少し怖い気持ちもありました。私は横断歩道をわたろうとすると、一台の車が走ってきました。車は私の目の前で走っていきました。その時は、怖かったです。そして、初めての体験でした。車にひかれなくて良かったものの、あと二、三歩進んでいると、もうボランティアの人に会えなくなっていました。そう思ったとたん、ボランティアの人達の大切さに気づけたと同時に、横断歩道をわたる時は、急がず、おちついてわたる事が大切だなと思いました。次の日からは、ボランティアの人が大好きになったし、いつもより交通安全を意識するようになった気がしました。

私は、中学生になって、自転車で通学するようになりました。自転車通学になると、通学路が変わります。私は小学生の時に通っていた横断歩道の少し手前の横断歩道をわたるようになりました。もちろんそこには、ボランティアの人達は居ません。小学生達の安全を守っています。入学初日の時は、寂しい気持ちもありました。でも、その時には交通ルールを分かっていたので、安心してわたる事ができました。

そして、自転車通学は、危ないです。だからこそ、たくさん気を付けることがあると思います。その中でも特に気を付けていることは、まがり角と、スピードです。まがり角は、車が見えずにつっこんでしまうと、車にも迷わくだし、自分の身にも被害がおよんでしまうからです。そして、まがり角でスピードを出すと、もっと大きな被害がおよんでしまいます。そういう事が起きてしまうのは、本当に悲しい事なので、日常から意識するようにしています。でも、私は正直ヘルメットをかぶるのがあまり好きではありません。重いし、ヘルメットの中に汗をかいて、なんだか気持ちわるいからです。小学生の時は、かぶってあたりまえだったけれど、最近は気にするようになってしまいました。でも、ヘルメットよりも、事故で大切な人に会えなくなってしまう事の方がもっともっと嫌だから、ヘルメットをしています。

私は昔から、交通安全を知るとともに、命の大切さも学んできました。それに感謝してこれからも自分の身を守っていきたいなと思いました。

「防げるものは防ぐ」

光市立光井中学校
二年　浅野　唯桜里

私は、学校の帰り道や、普段の生活の中であと一歩まちがっていたら、危険な目にあっていたということを体験したことがあります。

小さい子供がうしろに乗っている自転車が、曲がり角なのに、ものすごいスピードを出して曲がってきて、そこにいた私とぶつかりそうになりました。そのときは、お互いが気づき、よけれたから良かったものの、もしものことを考えると、とても恐ろしいことだなと思います。スピードが出ているので、ぶつかった場合どうなるか、こけた場合、うしろの小さな子供はどうなるのか、など、もしもの場合を想像して生活していくと、物事への警戒心が高まると思います。でも、何もかもに、警戒心を持っていても、毎日が疲れるだけだと思うので、頭の片すみに置いておいて、時々思い出すだけでも、危険な目にあう確率が、低くなるのではないかと思いました。

たとえ自分がどれだけ意識していたとしても、相手の不注意で、事故になることもあるし、意識していても必ず事故が起こらないというわけではないので、これからは、一瞬一瞬集中したいです。

私は最近いいなと思った取組のようなものがあります。それは、「ながらスマホ」を防止するためのもので、ある系統のゲームで見かけるものです。ある一定の速度を超えると、「あなたは今、運転手ではありませんか?」という表示がでるというものです。昔は見かけませんでしたが、「ながらスマホ」という言葉をテレビやネットなどで、よく聞くようになってから見かけるようになりました。私は、この文章を初めて見たとき、とても驚きました。ゲームでもこのような取組が行われているということを、初めて知りました。そして同時に、この取組がもっと広まれば良いのでは、と思いました。ゲームだけでなく、色々なアプリにこの取組を取り入れることで、自動車や自転車などを運転しながら、スマホをさわるという機会が少なくなり、交通事故が減少するのではないかなと思いました。

ヘルメットを着用することが努力義務化されました。私は、今まで大人はつけていなくて当たり前だったのに、なぜ努力義務化されたのだろうと思いました。ネットで調べてみると、自転車乗車中の事故での死亡者の約六割が、頭部致命傷を負っていたということが分かりました。そして、ヘルメット着用者と非着用者では、死亡率が二・一倍も変わるということが分かりました。ヘルメットという一つの物で、こんなにも死亡率が、変わるということに驚きました。小学生、中学生だから着けなくちゃとか、大人は着けなくても大丈夫という固定概念を捨てなくちゃいけないな

と思いました。

私は、交通安全と聞くと、やはりシートベルト着用やとび出し禁止という言葉が浮かびます。よく考えてみると、交通安全は「車」というイメージがあったけど、両方とも人に関わることだったので、改めて、車だけが気をつけていたとしても、人が大丈夫、大丈夫と、気を抜いていたら、意味がないんだなと気づきました。交通といっているので、つい車や電車、バスなどの交通機関のことを思い浮かべてしまうけれど、けっしてそうではなく、ちゃんと人と交通機関の事故も含んでいるということを覚えておいて、車が気をつけているから大丈夫という気持ちを捨てたいと思います。信号などでも、青だから大丈夫と思わず、一度周りを見て、安全を確認してから渡ろうと改めて思ったし、すべてを安心しきっていても、危ないなと思いました。

とび出しやシートベルト非着用、ながらスマホ、ヘルメット非着用などで起こる事故はどれも、がまんしたり、つけたりするだけで防げる事故だと思います。どれも、そのときの、まぁいいかという油断だったり、自分への甘えだったりだと思うので、それに打ち勝って、交通ルールを守ることで、安全に過ごせるのではないかと思いました。

私はこれから、甘えや油断に打ち勝ったり、当たり前の交通ルールを守ったりして、防げる交通事故はちゃんと自分で防いでいきたいと改めて思いました。そして、作られている交通ルールには、ちゃんとすべて理由があるんだということをちゃんと理解して、これからは、自分の意志をしっかり持って、防げるものは防いでいきたいと思いました。

点検整備を受けた自転車に乗りましょう。

○自転車安全整備店で点検・整備を受けると、その証としてＴＳマークが自転車に貼付されます。年１回は点検整備を受けましょう。
ＴＳマークには、賠償責任保険と損害保険の２つがセットになった1年間の付帯保険が付いており、もしもの時に安心です。

○お近くの自転車安全整備店へご相談ください。

赤色TSマーク	緑色TSマーク	自動車安全整備店章

	賠償責任補償限度額	被害者見舞金	傷害補償保険金額	
		入院15日以上の傷害	死亡・重度後遺障害（１～４級）	入院15日以上の傷害
緑色 TSマーク	死亡・損害（制限なし） ※示談交渉サービス付き 限度額１億円	なし (賠償責任補償により対応)	一律50万円	一律5万円
赤色 TSマーク	死亡・重度後遺障害（１～７級） ※示談交渉サービスなし 限度額1億円	一律10万円	一律100万円	一律10万円